鳴門教育大学授業実践研究
－学部･大学院の授業改善をめざして－
第17号　2018

高等学校日本史におけるキャリア教育の視点を意識した授業実践

岡　村　美　香*，藤　井　伊佐子**

（キーワード：キャリア教育　　育成を目指す資質・能力　　授業参観シート）

Ⅰ　はじめに

筆者は本年度,「しなやかに生きる社会人の育成を目指したキャリア教育の在り方について」をテーマに協力校での実習を行っている。しなやかに生きる社会人とは，困難に耐え失敗しても立ち上がれる強さ，現実を受け入れ自分の置かれた状況で頑張れる適応力，周りを受け入れる優しさ・協調性を持つ社会人である。このテーマのもと，これまでに生徒が毎日の学びを記録し，身に付けたい力との結び付きを考える「進路ノート」の取組を実践の中心に据え，キャリア教育の視点を生かしたホームルーム活動の実践や目指す生徒像の設定・共有のためのワークショップ型研修の実施，活動の目的・意義の伝達や実践の共有のための通信発行等の取組を行った。

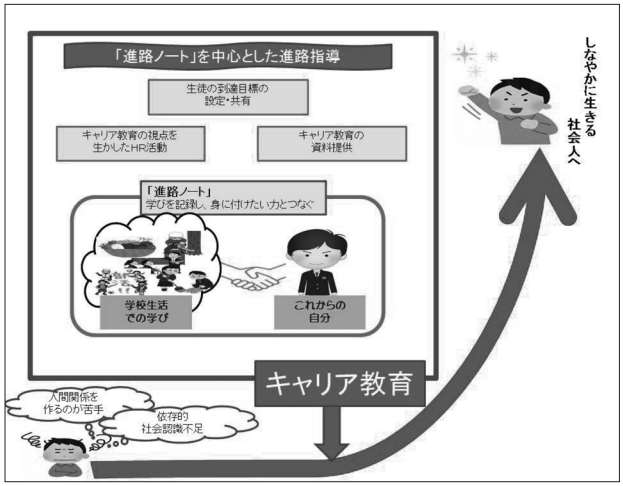


図１　実習のイメージ

これまでの実習を通して改めて感じたのは，毎日の授業の重要性である。学校生活の中には部活動や学校行事等いろいろと学びを得る機会があるが，生徒の学びの土台は，授業である。毎日の授業で生徒たちが学んだことをさらに実感できれば,「進路ノート」を使っての活動はさらに充実し，基礎的・汎用的能力の育成や自己肯定感の育成につながっていく。また，毎日の授業での積み重ねは生徒のキャリア意識の向上にもつながる。そこで，今回，新たにキャリア教育を意識した授業作りに取り組むことにした。

Ⅱ　研究の背景と目的・方法

１　キャリア教育の実際

キャリア教育は「一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して，キャリア発達を促す教育」と定義されている。この定義に関して児美川（2013）は，思い切った“意訳”と前置きして，社会の様々な「『役割』を担うことができるように成長すること，そのことを，自分の『生き方』として，自分の中に統合していけることが『キャリア発達』」であり，「『キャリア発達』のための力量形成に資するのが，『キャリア教育』」だとした。また「職業や就労だけに焦点を当て，キャリア教育を教育課程から見て“外付け”の実践と考えるのは，発想が狭すぎる」と述べている。『高等学校キャリア教育の手引き』（2012）は，「日々の授業，学校行事，生徒会活動や部活動においても教職員の共通理解のもとキャリア教育に取り組む態度が重要」としている。坂本ら（2014）は，生徒・教員へのアンケート調査から，「基礎的･汎用的能力」が上昇している学校の取組体制を調べた結果，学校体制では「『学校の課題や重点目標』『学校で身に付けさせたい能力や態度』について，学校目標やキャリア教育についての年間計画で具体的に示している」，教員では「『学ぶことの意義を理解し，学校での学習と将来とのつながりを考えること』『自分の将来の目標に向かって具体的に行動したりその方法を工夫したりすること』について８割以上の教員が重視して指導している」ことが特徴だとしている。

以上のことから，教職員が共通理解のもと，毎日の教育活動の中で，学校での学習と生徒の将来とのつながりを考えることを重視して指導していくことが大切だと考

*鳴門教育大学大学院　高度学校教育実践専攻
**鳴門教育大学　基礎・臨床系教育部

えられる。

2　キャリア教育を意識した授業について

新学習指導要領は，育成を目指す資質・能力の三つの柱を挙げ，「何を知っているか」だけでなく「それをどう使うか」「それをどう人生や社会に生かしていくか」を求めている。このことについて奈須（2017）は，「資質・能力を基盤とした教育において各教科等を教えるとは，その各教科ならではの『見方・考え方』に照らして，その子の資質・能力がより顕在化・拡充・洗練するよう支援することだと再定義できる」と述べている。そして，「資質・能力の育成というのは教科とは何か別のものを新たに教える教育などではなく，内容中心で考えてきた結果その本質をいつの間にか見失いかけている各教科について，改めて本来の在り方を問い直し，実践的に再構築する企て」とも述べている。

なお，中央教育審議会答申（2016. 12. 21）の別添３では，新学習指導要領における「社会的事象の歴史的な見方･考え方」として，「社会的事象を時期や推移などに着目して捉え，類似や差異などを明確にしたり，事象同士を因果関係などで関連付けたりすること」を挙げている。

以上のことから，キャリア教育を意識した授業作りとは，その教科の「見方・考え方」を踏まえて，資質・能力の育成を目指した授業だと考えられる。

3　研究の目的・方法

以上のことを踏まえ，本研究では筆者の専門である高校日本史で，キャリア教育の視点を意識した授業実践に取り組むこととした。方法は次の３段階である。

⑴　ホームルーム活動での実践

授業の中で直接的にキャリア教育について取り扱えるのがホームルーム活動である。そこで，まずホームルーム活動でキャリア教育の視点を意識し，資質・能力の育成を目指した授業実践を考えた。

⑵　キャリア教育を意識した授業参観シートの作成

前述したように，キャリア教育はどの教科でも行うべきものである。各教科特有の「見方・考え方」はあるが，その教科の特性を越えて，授業を作る上で意識すべき共通点があるはずである。そこで，キャリア教育を意識した授業参観シートを作成しようと考えた。専門外の教科を含めてお互いに授業参観する際の指標とすること，また自ら授業を作る際の参考にすることを目的とした。

⑶　日本史授業の実践

これらを踏まえ，日本史授業の実践を行うことにした。

4　協力校の概要

協力校は，のどかな自然に囲まれた農業科単独分校である。本年度４月に，近隣高校との再編統合によって分校として新たに開校した。全校生徒は102名(H29. 4. 1現在）の小規模校で，各学年に農産物の栽培や食品加工等について学ぶ食農科学科と，森林資源の活用や園芸等について学ぶ環境資源科が１クラスずつある。

卒業後の主な進路は就職で，製造関係の仕事に従事する卒業生が多い。農業科であるが，卒業後に農業に従事する者はほとんどいないのが現状で，毎年，数名の生徒が県立農業大学校へ進学するのみである。

生徒は素直で人懐っこく，農業科の学習を通じて，自分たちでものを作り上げる達成感を感じたり，誰かの役に立つ喜びを感じたりしている。一方で，周りへの依存度が高く，社会への認識が不足しており，人間関係形成能力が弱いように思われる。このような生徒の抱える課題を解決するためには，学校を挙げたキャリア教育が必要だと考えられる。

なお，協力校は専門学科であるため，総合的な学習の時間は農業科の科目「課題研究」に代替されており，実施されていない。課題研究では農業科のより専門的な研究を行っており，直接的に進路指導に関わることは扱っていない。そのため，直接的にキャリア教育・進路指導について扱うのはホームルーム活動のみである。

Ⅲ　ホームルーム活動での実践

1　ねらい

ホームルーム活動での実践では，次の２点を意識した。

・生徒の自己理解と社会認識の育成を図る
・生徒の希望と現実との折り合いを付けさせて,「やりたいこと」「やれること」「やるべきこと」の三者が交わるところでの進路決定を目指す

2　実践内容

⑴　テーマ「社会から求められる人を考える」

・対象：２年生
・実施日：平成29年５月11日

いろいろな仕事はそれをしてほしい人がいるから存在している。そこで，職業は求める人がいるから成り立っていることに気付かせた上で，社会から求められる人物とはどんな人かを話し合った。授業は活発な意見交換ができるように数人のグループに分けて行った。まず，各自で社会から求められる人物の条件を付箋に書き，それをグループで構造化していった。その後，作成した成果物をもとに、各グループで発表した。最後に，各自でそんな人になるために自分がするべきことを考え，ワークシートに記入した。

写真１　付箋に記入する様子

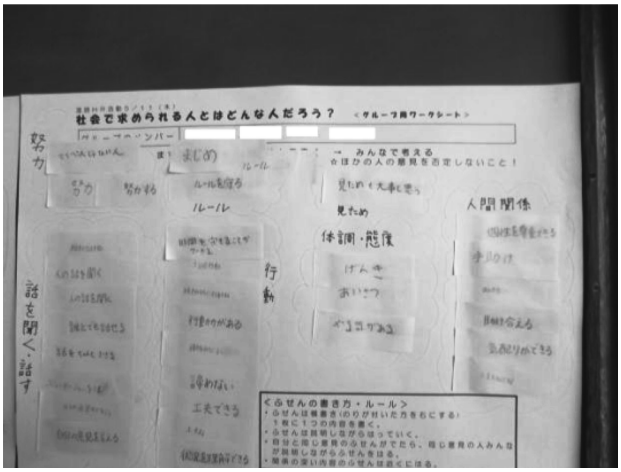
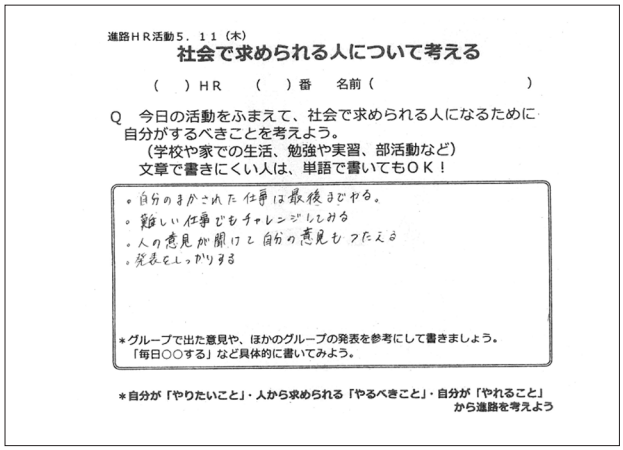


写真２　グループで作成した成果物の一例



進路ＨＲ活動５．１１（木）

社会で求められる人について考える

（　）ＨＲ　（　）番　名前（　　）

Ｑ　今日の活動をふまえて、社会で求められる人になるために自分がするべきことを考えよう。
（学校や家での生活、勉強や実習、部活動など）
文章で書きにくい人は、単語で書いてもＯＫ！

・自分のまかされた仕事は最後までやる。
・難しい仕事でもチャレンジしてみる
・人の意見が聞けて自分の意見もつたえる
・発表をしっかりする

＊グループで出た意見や、ほかのグループの発表を参考にして書きましょう。
「毎日○○する」など具体的に書いてみよう。

＊自分が「やりたいこと」・人から求められる「やるべきこと」・自分が「やれること」から進路を考えよう

図２　生徒が記入した個人ワークシート

生徒は活発に話し合い，求められる社会人として，「あいさつができる，自分の意見を持つ，報告・連絡・相談ができる」等の様々な条件を挙げていた。しかし，自分がするべきことについては，２年生から始まった農業科の実習，授業への取り組み方，部活動等具体的な行動を記述できている生徒もいたが，「一生懸命する」など抽象的な記述で終わっている生徒が多かった。

⑵　テーマ「進路に関する講話」

・対象：３年生
・実施日：平成29年６月15日

高校３年生の６月は部活動を引退する生徒がほとんどで，進路実現への活動が本格化する時期である。しかし進路について深く考えずに他人任せにしてしまう生徒や，厳しい現実に不安を抱える生徒もいる。現実の厳しさを見つめる必要があるが，それを受け入れる強さも必要である。そこで，どれほど頑張っても不採用・不合格になる生徒もいる現実を踏まえ，それを乗り越えて進路選択をしていった卒業生の事例や，偶然の出来事から進路選択していった卒業生の事例等を紹介した。その上で，最後は誰のせいにもせずに自分自身で現実を受け入れる進路選択をしてほしい，チャンスを生かせる努力をしてほしいことを伝えた。そして，最後の一人が決まるまで学年全体で支え合っていってほしい，と話を締めくくった。

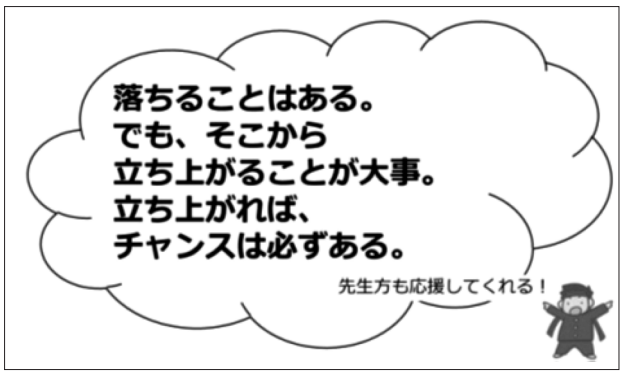


図３　講話の際に使用したスライド①

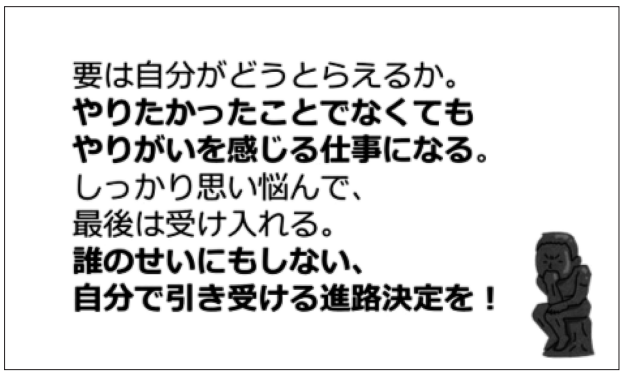


図４　講話の際に使用したスライド②

講話の最後に，振り返りのアンケートと感想を書いてもらった。アンケートでは「進路について考えるきっかけになった」「進路実現に向けて，自分のできることからやってみようと思った」ともに，「よく当てはまる」「少し当てはまる」の合計が100％となった。また感想には

「就職試験は厳しい。苦しいが自分が行きたいところに行くためには必死に頑張らなくてはいけない」「自分が無理と言ったらそこで終わるからやれるだけやってみよう，挑戦しよう」「進路について反対されたことをプラスに考え，自分のことを見つめ直そう」等があった。その一方で，「働くことはつらいし，楽しくないと感じた」「落ちたりした話を聞くと，辛い気持ちになった」等，講話を聞いて進路選択や働くことをマイナスイメージで受け止めた生徒もいた。

そこで，事後指導として，三好市箸蔵寺の佐藤盛仁住職が講演会で話されていた「はたらくとは『はた（周りの人)』を『らく（楽)』にすることですよ」という言葉を紹介する通信を配付した。働くことの意義を感じてほしかったからだ。

平成２９年６月２１日

3年生のみなさんへ
『感想を読んで考えたこと』
～これまでのキミが，これからのキミを創る～

６月１５日（木）にみなさんにお話しさせていただきました。みなさん は一生懸命聞いてくれて，一生懸命メモをとってくれました。不採用になった生徒の話など，私にとっていい思い出ではない話もありましたが，みなさんに話して良かったと思います。本当にありがとう。

○みなさんの感想より

みなさんが書いたたくさんの感想，読みました。就職試験・進学試験は厳しい，しんどいけど自分がいきたい所に行くためには必死に頑張らなくてはいけない，助けてくれる先生や先輩は大切だ，自分が無理と言ったらそこで終わるからやれるだけやってみよう・挑戦しよう，変々とできる自信と根拠を持ちたい，反対されたことをプラスに考え自分のことを見つめ直そう・・・一人一人いろいろ思いがありました。これをきっかけに，一歩前へ進んでほしいと思います。

ただ私の話が重すぎたのか，働くことはつらいし，楽しくないと感じた人もいたようです。確かに働くことはつらいこともありますし，楽しくないこともあります。でもそれだけでしょうか？

○「はたらくとは」ｂｙ箸蔵寺の佐藤住職

以前，箸蔵寺の佐藤住職が「仕事」について話されていました。「もともと人間は身の回りのことを全部一人でしていた。でもそれが大変なので，だんだんほかの人にしてもらうようになった。それが仕事のはじまり。仕事はすべて誰かのために行うものなんです。だから

「はたらくは「はた（まわりの人）」を「らく（楽）にする」ことですよ」と。

働くことはつらいかもしれない，楽しくないかもしれない，でも誰かのためになってるんです。私はこの話がめっちゃ好きです。なんかすてきやなって思います。

○とことんまでやってみよう

自信は"自分を信じる"と書きます。どうしたら自分を信じることができるのでしょうか？私はとことんまでやるのが一番だと思います。「がんばった」といっても，その言葉が本当かどうかは自分自身が一番よく知っているからです。自分から「がんばった」と思えたとき，あなたは自信にみちあふれた人になっているでしょう。みんなの"とことん"を応援します。

この文章は以前担任したクラスの生徒に言ったものです。みんなの担任の先生方もきっと同じ気持ちだと思います。とりあえず，今日から"とことん"やってみてください！！

★おまけ

ちょっと前にはやった歌のなかにいいなぁと思う歌詞があったので紹介します。

力悲しいときは枯れるまで泣き　うれしいときは躍動して笑い　切ないときは風を感じて
高く飛べる日を待てばいい　（Ｇｒｅｅｅｎ　「刹那」）♪

思うようにならないこともあるかもしれませんが，毎日毎日を大事に過ごし，力をためていこうって思いました。以上です！

岡村　美香

図５　講話後に配付した通信

⑶　テーマ「ジョハリの窓」

・対象：１年生

・実施日：平成 29 年６月 22 日

＊授業案は筆者が作成したが，実践はクラス担任が行った。

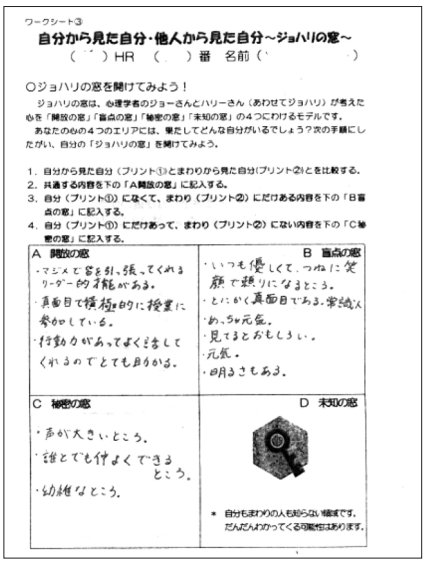
アメリカの社会心理学者ジョー・ルフトとハリー・イングラムが考案した人の心の領域を示すモデルに「ジョハリの窓」がある。彼らの説によると，私たちの心の中には次の４つの領域があり，その４つの領域を理解することで自分を理解するとされる。

表１　「ジョハリの窓」が示す４つの領域

		自分自身が	
		知っている	知らない
周囲の人が	知っている	開放の領域（見た目・運動能力・得意科目　等）	盲点の領域（クセ・寝ているときの自分・後ろ姿等）
	知らない	秘密の領域（秘密にしていること　等）	未知の領域（これからの可能性　潜在能力　等）

この「ジョハリの窓」をもとに授業を行った。活動内容が多いため，事前に「自分から見た自分」をワークシートに書き出しておいた。

授業は活発に意見交換ができるよう数人のグループに分けて行った。事前に書いてきた「自分から見た自分」とグループのメンバーが付箋に書いた「周りから見た自分」を比較し，「開放の窓」「盲点の窓」「秘密の窓」「未知の窓」に分類していった。そして，この活動を通して気付いたことがないか振り返った。生徒たちからは「自分は思っていなくても周りの人からはこんな風に見えているのだと意外なことをいっぱい知れた」「自分のことをもう一度考えるきっかけになった」等の意見があった。最後に振り返りのアンケートと感想を記入した。


ワークシート③

自分から見た自分・他人から見た自分～ジョハリの窓～

（　　）HR　（　　）番　名前（　　）

○ジョハリの窓を開けてみよう！

ジョハリの窓は，心理学者のジョーさんとハリーさん（あわせてジョハリ）が考えた心を「開放の窓」「盲点の窓」「秘密の窓」「未知の窓」の４つにわけるモデルです。

あなたのための４つのエリアには，何だとしてどんな自分がいるでしょう？次の手順にしたがい，自分の「ジョハリの窓」を開けてみよう。

1. 自分から見た自分（プリント③）とまわりから見た自分(プリント②)とを比較する。
2. 共通する内容を下の「Ａ開放の窓」に記入する。
3. 自分（プリント①）になくて、まわり（プリント②）にだけある内容を下の「Ｂ盲点の窓」に記入する。
4. 自分（プリント①）にだけあって、まわり（プリント②）にない内容を下の「Ｃ秘密の窓」に記入する。

A　開放の窓	B　盲点の窓
・マジメで皆を引っ張ってくれるリーダー的存在がある。 ・真面目で積極的に授業に参加している。 ・行動力があってよく手伝ってくれるのでとても助かる。	・いつも優しくて，つねに笑顔で接りになるところ。 ・とにかく真面目である。家族大 ・めっちゃ元気。 ・見てるとおもしろい。 ・元気。 ・明るさもある。
C　秘密の窓	**D　未知の窓**
・声が大きいところ。 ・誰とでも仲よくできるところ。 ・幼稚なところ。	＊　自分もまわりの人も知らない領域です。だんだんわかってくる可能性はあります。

図６　生徒が記入したジョハリの窓ワークシート

振り返りアンケートは次のような結果になった。

質問１：自分の知らなかった面に気付くことができた

Ａクラス：とてもそう思う　37.5%
　　少しそう思う　50.0%　（計 87.5%）

Ｂクラス：とてもそう思う　20.0%
　　少しそう思う　53.3%　（計 73.3%）

質問２：周りの人と関わりを持つことで，新しい発見があると思った

Ａクラス：とてもそう思う　37.5%
　　少しそう思う　62.5%　（計 100%）

Ｂクラス：とてもそう思う　31.3%
　　少しそう思う　56.3%　（計 87.6%）

全くそう思わない人は両クラスとも０名

どちらのクラスでも，「今回の活動で自分の知らなかった面に気付くことができた」「周りの人と関わりを持つことで新しい発見があった」という感想をもった生徒が多

かった。また，「お互いに良い面を見つけ合うことが良かった」と答えた生徒もおり，仲間作りにもつながったと考えられる。

3　成果と課題

どのホームルーム活動も生徒たちは活発に活動し，事後の生徒アンケートの結果も好意的な内容だった。自己理解と社会認識を深め，現実との折り合いをつけながら前向きな進路決定を目指すことに対する効果はあったと考えられる。また，生徒たちは自分の将来に対して真剣に向き合おうとしていることも分かった。しかし，テーマ「社会から求められる人を考える」でもそうだったように，活動したことを生徒自身の毎日の生活につなげていくためには，さらなる工夫が必要である。ホームルーム活動をきっかけに継続した指導を行う必要性を感じた。

Ⅳ　キャリア教育を意識した授業参観シートの作成

1　ねらい

ホームルーム活動での実践を通して，将来について考えることへの生徒たちの意欲を感じたと同時に，一度の指導で終わらずに継続した指導を行う必要性も感じた。

それを踏まえ，キャリア教育を意識した授業参観シートを作成した。このシートを用いて，教科の特性を越えて，キャリア教育を意識した授業になっているかをお互いに確認できるようにすること，自らの授業作りの参考にすることをねらいとした。

2　シートの概要

シートは中央教育審議会答申（2016. 12. 21）の別紙６「キャリア教育に関わる資質･能力」を基に作成した。別紙６では，「キャリア教育で育成をめざす『基礎的･汎用的能力』の４つの能力（『人間関係形成･社会形成能力』『自己理解・自己管理能力』『課題対応能力』『キャリアプランニング能力』）を統合的に捉え，資質･能力の三つの柱に沿って整理すれば概ね以下のように考えることができる」として，基礎的・汎用的能力を資質・能力の三つの柱ごとに整理し直している。そこで，整理し直した内容をさらに細かく分類して具体的なポイントを設定した。設定したポイントは次の通りである。

表２　授業参観シートの具体的なポイント

資質・能力	具体的なポイント
知識・技能	学ぶこと・働くことの意義の理解
	問題を発見・解決するための知識・技能
	多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図るための知識・技能
	自己の考えを深めて表現するための知識･技能
	自分自身の個性や適性等を理解するために必要な知識・技能
	自らの思考や感情を律するために必要な技能
思考力・判断力・表現力等	問題を発見・解決する力
	多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図る力
	自己の考えを深めて表現する力
	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」をもとに，自分と社会との関係を考え，主体的にキャリアを形成していくことができる力
学びに向かう力・人間性等	キャリア形成の方向性と関連付けながら今後の成長のために学びに向かう力
	問題を発見し，それを解決しようとする態度
	自らの役割を果たそうとする態度
	多様な人々と協働しようとする態度
	よりよい人生や社会を構築していこうとする態度

これらのポイントが授業の中で育成されているかを確認していく形のシートに仕上げた。

授業参観シート

実施日時	月　日（　）　限目　（　）HR		
科目		授業担当者名	先生

このシートは「かかわる力」「みつめる力」「すすむ力」「えがく力」を育成したい資質・能力の三つの柱（次期学習指導要領）にあわせて整理したものです。毎日の授業で，キャリア教育を意識してみてください。

☆卒業時の生徒イメージ
変化の激しい社会に対して，しなやかな心を持ち　努力を惜しまず
他人の役に立つ喜びを感じながら生きていく生徒

授業を通して育成されていると感じたものすべてに○をつけてください。

資質・能力	具体的なポイント	○
知識・技能	学ぶこと・働くことの意義の理解	
	問題を発見・解決するための知識・技能	
	多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図るための知識・技能	
	自己の考えを深めて表現するための知識・技能	
	自分自身の個性や適性等を理解するために必要な知識・技能	
	自らの思考や感情を律するために必要な技能	
思考力・判断力・表現力等	問題を発見・解決する力	
	多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図る力	
	自己の考えを深めて表現する力	
	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」をもとに，自分と社会との関係を考え，主体的にキャリアを形成していくことができる力	
学びに向かう力・人間性等	キャリア形成の方向性と関連付けながら今後の成長のために学びに向かう力	
	問題を発見し，それを解決しようとする態度	
	自らの役割を果たそうとする態度	
	多様な人々と協働しようとする態度	
	よりよい人生や社会を構築していこうとする態度	

<感想・アドバイス>

参観者名（　　）

図７　授業参観シート（全体）

3　シートを用いての授業参観

このシートを用いて，協力校でいくつかの授業を参観した。教科は国語・数学・英語・保健体育・農業である。

実際にシートを使ってみると，どの項目に当てはまるのか判断に迷うところはあったが，授業で目指している方向をよりはっきりと観察することができた。

参観後は授業者にシートとともに気付いたことをメモした付箋を渡した。その際，数学科教員が「過去に習っ

たことを生かして現代の問題を解くことが数学を学ぶ意義だと思っているが，そのことを生徒にはあまり伝えたことがない」と話していた。同じく英語科教員も「簡単な単語で自分のことを話せるようになる，生徒にはそうなってほしいが，生徒には伝えていない」と話していた。教員それぞれにその教科を学ぶ意義を考えてはいるものの，内容を伝えることを重視して，学ぶ意義を伝えることを意識していないように思われた。ここにキャリア教育を意識した授業作りのポイントがあるように感じた。

Ⅴ　日本史授業の実践

1　ねらい

授業参観シートを基にした他教科の授業参観を踏まえ，本実践では「学ぶこと・働くことの意義の理解」を中心に授業を組み立てることにした。教材の内容ではなく，生徒に育てたい資質・能力を重視した。本実践では，協力校が農業科なので，生徒たちが「農業を学んできて良かった」「農業を学ぶことは大事だ」と思えるような授業を目指した。

2　実施内容

⑴　対象学年・クラス

３年生　Ａクラス
（飼育栽培・食品製造等を学ぶ食農科学科）
Ｂクラス
（森林資源活用・園芸等を学ぶ環境資源科）

⑵　実施日

Ａクラス　平成29年10月４日（水）
Ｂクラス　平成29年10月６日（金）
＊Ｂクラスは研究授業とし，授業後に研究協議を行った。

⑶　授業の実際

①テーマ

江戸時代の飢饉を防ぐ方法を考える学習を今の自分に生かそう

②授業のねらい

・農業を学ぶことは大事なことであることに気付かせる
・これまで経験したことや学んだことを生かし，問題解決しようとする力を養う

③授業展開

初めにワークシートを配付し，テーマについて説明した。高校３年間で学んだ農業の知識やこれまでの経験・学びを生かして飢饉を防ぐ方法を考えるよう指示し，その学習を今の自分に生かしてほしいという願いを伝えた。「歴史は今に生かすために学ぶ」という筆者が考える歴史を学ぶ意義も伝えた。

次に江戸時代の飢饉の概要，政治・経済について説明した。具体的には，飢饉の原因の一つが自然災害であること，餓死者の中心は農民であること，農民から安定して年貢を取るために幕府が土地利用を制限していたこと，鎖国や関所の設置により流通の自由がなかったこと等である。

そして，これまでに学んだ農業の知識と，本時に学習した江戸時代の知識を生かし，飢饉を防ぐ方法を生徒各自で考えた。Ａクラスでの実践では時間が足りずに，個人で考えた後は全体で数名が自分の意見を発表するのみであったが，Ｂクラスでの実践では，個人で考えた後にグループでの意見交換の時間を持つことができた。両クラス共に生徒からは「寒さに強い米を作る」「米以外のその場所にあった作物を作れるように制限を無くす」「年貢を米限定にしない」「流通を自由にする」「都市部に集まっている米を他地域に分散させる」等，農業の知識と江戸時代の知識を生かした様々な意見が出てきた。

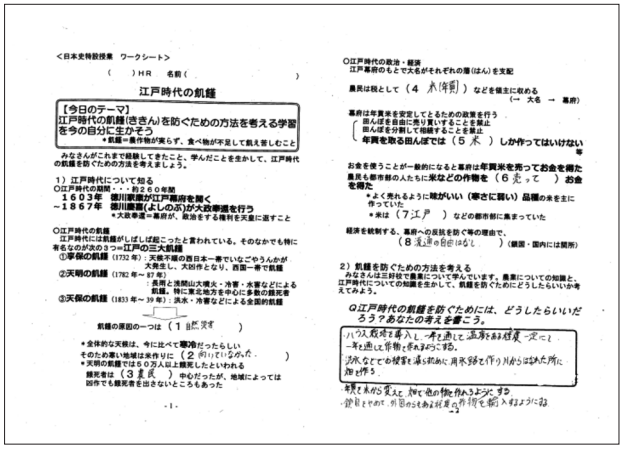


図８　生徒が記入したワークシート

図９　別紙資料「江戸時代の農業について」

その後，図９　別紙資料「江戸時代の農業について」を配付し，江戸時代の人々も生活を良くするために生産力の向上や飢饉防止のための取組をしていたことを説明した。その上で，江戸時代も現代も生活をさらに良くしていくために努力している点は共通するが，現代は，生活のためだけでなく他の理由，例えば新しい社会のニーズに応えるため等，そこに新しい何かを加えることができることを気付かせた。そして，生徒たちが農業科の実習で行ってきたことを挙げて，高校３年間の農業科の学習では，今までの農業のやり方に新しいアイディアを加えて地域を豊かにする研究を行っており，新しいアイディアを加えるという姿勢は，これからの人生でも生かされることを補足した。

写真３　授業の様子（Ｂクラス）

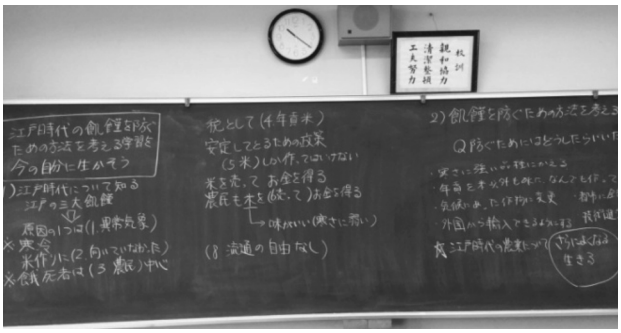


写真４　板書（Ａクラス）

最後に，授業の振り返りとしてアンケートと感想記入を行った。

３　成果と課題

⑴　アンケートの結果と感想

振り返りアンケートでは次のような結果になった。

質問１：事実や周りの人の意見を参考に理由を考えることができた

Ａクラス：	とてもそう思う	40%	（計 100%）
	少しそう思う	60%	
Ｂクラス：	とてもそう思う	42.9%	（計 100%）
	少しそう思う	57.1%	

質問２：農業を学ぶことは大事だと思った

Ａクラス：	とてもそう思う	86.7%	（計 100%）
	少しそう思う	13.3%	
Ｂクラス：	とてもそう思う	42.9%	（計 92.9%）
	少しそう思う	50%	

Ｂクラスで１名があまりそう思わないと回答
全くそう思わないと回答した人は両クラスとも０名

アンケート結果を見ると，ねらいはほぼ達成されたように思うが，農業を学ぶことについての質問は，ＡクラスとＢクラスにはやや差が見られた。

生徒の感想には次のようなものがあった。

- 自分には新しいことをやっていける自由があるので食品の授業でしているジビエの料理の研究を生かして，新しいことに挑戦していきたい
- 農業は少しずつ進化・進歩していると思う。探求心とモチベーションは大切！
- 自分の思い付かなかった事も他の人は思い付いているので，他の人の意見も聞いていこうと思った

農業で学んだことを生かしてこれからを頑張りたいという感想が多く寄せられた。また，意見を交換する意義を感じた生徒もいた。

⑵　研究協議

Ｂクラスの授業後に，研究協議を行った。その際，Ａクラスでのアンケート結果も簡単に説明した。先生方からは「働く意義や新しいことにチャレンジすることの大切さを学ぶことができる」「自分がやってきたことを評価することにもつながり，自己肯定感や学習意欲の向上につながる」等の意見があった。一方で，課題・改善策として「農業科教員と連携して，具体的な実習の内容との結び付きを強める」「生徒たちにこれまでの実習のことや今回の題材に関係するような経験を思い起こさせた後で，活動に入る」「飢饉の原因･解決すべき課題等を整理して板書する」等が挙げられた。

研究協議を通して，働くことの意義等キャリア教育の視点が生かされてはいるが，生徒が自分自身の課題として考えるための工夫が不十分だったことが分かった。特にＢクラスは今まで学んできた林業や園芸と農作物の栽培という今回の題材がかけ離れており，そこへの配慮が足りなかった。この点については農業科の先生から，「飢饉の原因の一つに自然災害があるので，山林の管理についてのヒントを与えれば，林業を学ぶ生徒もいるＢクラスの生徒には伝わりやすかったのでは」とのアドバイスがあった。また，農業を学ぶ大切さという点において「農業は社会の根幹をなす一次産業なので，未来へつないでいくべきという視点も必要ではないか」との意見もあった。

教材の捉え方として，授業の中では飢饉と凶作の原因

の違いを明確には区別していなかった。餓死者が農民中心で，凶作でも飢饉が発生しない地域があることから，自然災害は凶作の原因であるが，常に飢饉の原因になるとは限らない。そのことに気付くことが生徒の課題解決のヒントになるが，そのことを生徒に明示できていなかった。

⑶　成果と課題

これらのことから，教材の内容ではなく育成を目指す資質・能力から授業を組み立てていくことが，キャリア教育を意識した授業作りに有効だと確認できた。一方で，本実践では，授業作りの基本である生徒の実態に合わせることへの配慮が欠けていた。また歴史を読み解くには類似や差異等を明確にしたり，事象同士の因果関係に注目したりすべきだが，そのことへの配慮が足りなかった。例えば，私はＢクラスの授業中に，「生産量を増やす方法としてハウス栽培はダメですか」と聞いた生徒に対し，悩んだ末に「江戸時代にハウスはないからダメ」と答えた。これに対し，ある先生から「ダメと言わずに，江戸時代に存在したもので代用できないか考えさせたらよかった」とのアドバイスがあった。時代を越えて事象を見るという歴史の醍醐味を知らず知らずに生徒から奪っていたのだと反省した。生徒の実態に合わせ，教科の特性を生かすことができていれば，もっと生徒たちは学ぶ意義が感じられたはずである。

Ⅵ　成果と今後の方向性

1　成果

本研究での成果は次のとおりである。

・ホームルーム活動での実践では，生徒たちは将来へ向き合おうとする気持ちは持っているが，それを自身の生活につなげていくには継続した指導が必要なことが分かった。
・授業参観シートの作成によって，意識すべきポイントが明確になった。特にそれぞれの教科の学ぶ意義については，重点的に伝えるべきだと感じた。
・高校日本史の実践では，育成を目指す資質・能力を意識して授業作りを行うこと，各教科の「見方･考え方」を働かせること，生徒の実態に合わせることが，キャリア教育を意識した授業作りにつながることが確認できた。

2　今後の方向性

奈須（2017）は，資質･能力の育成を目指して学校現場がすることとして，「子供たちが明晰な自覚を持ってその教科ならではの『見方・考え方』を身に付け，さらにその教科が主に扱う領域や対象を踏み越えて，それらを様々な問題解決に自在に駆使できるようになる」ために「教科をしっかりと教えることから着手すべきだ」と述べている。キャリア教育を意識した授業は，本来的な意味で教科をしっかりと教える授業だといえる。

筆者はかつて「分かりやすい授業が良い授業」だと思っていた。教科の内容をいかに生徒が理解しやすいように教えるか，知識をいかに伝えるかが大事だと思っていた。しかし，それは本来の教科指導ではなかった。資質・能力の育成を目指し，教科の「見方・考え方」を身に付けられるような授業を実践するべく，今後も研鑽に励みたい。

謝辞

最後になりましたが，本研究を進めるにあたり，温かいご配慮をいただいた徳島県立池田高等学校三好校の竹内圭三校長先生，川人誠治教頭先生ほか各先生方，全校生徒の皆さんには大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

文献

1）児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』筑摩書房（2013）
2）文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』（2012）
3）坂本万礼・別役千世・山岡晶「キャリア教育の充実に向けた教育課題や指導方法の改善についての研究－高等学校普通科におけるキャリア教育の推進及び充実に向けて－」高知県教育センター研究紀要 pp26 － 37（2014）
4）奈須正裕『「資質･能力」と学びのメカニズム』東洋館出版（2017）
5）中央教育審議会答申「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（別紙６）　キャリア教育に関わる資質・能力（別添３）社会，地理歴史，公民（2016．12．21）
6）笹山春生ほか 15 名「詳説日本史改訂版」山川出版（2016）